

【白河市】 校務 DX 計画

白河市では、福島県教育委員会が県域で運用する汎用クラウドプラットフォーム「FCS (ふくしまクラウドサービス)」及び「統合型校務支援システム」の活用を中心に校務 DX に取り組んでいる。

現在までに、下記の取り組みを実施して計画的に校務 DX を進めてきた。

さらに、「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」による自己点検結果等を踏まえ、クラウドサービスの一層の活用や取り組みの改善等を行う。

1 クラウドサービスの活用

県域で整備された「FCS」により、教職員および全ての児童生徒が Google Workspace for Education を活用できる環境にある。この環境を生かし、クラウドストレージを利用した校内研修や会議資料の共有、アンケートフォームの活用等、校務の効率化が各校で進みつつある。

今後、教育情報セキュリティポリシーの整備を行い、情報資産の管理や生成 AI の使用も含め、教職員のクラウドサービスのさらなる活用に対応できるよう推進を図っていく。

2 校務の効率化・ペーパーレス化

本市では、令和 3 年度に「統合型校務支援システム」を導入し、令和 4 年度より段階的に校務に取り入れて活用してきた。学校日誌や出席簿、通知票、保健関係書類等の電子作成により校務の効率化や負担軽減を図ってきた。

令和 6 年度から「保護者連絡アプリ」を導入し、欠席連絡やお知らせ配信等が可能な環境を整備している。また、不審者情報等については、教育委員会からアプリを用いて各家庭へ配信する等の取り組みを行っている。

「統合型校務支援システム」や「保護者連絡アプリ」の機能をさらに活用できるように、電子媒体による文書の提出や押印の見直し、学校を介さない保護者への情報提供等について整備していくことで、校務の効率化を図る。また、研修や会議資料を電子データで送付する等のペーパーレス化へ向けた取り組みを推進する。

3 次世代型校務支援システムの導入

文部科学省が示す「パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システム」の導入のためには、校務系と学習系の異なるネットワークを一本化させなければならない。次世代型校務支援システムの導入へ向けては、今後も情報を集め検討を実施する。